



図4-19 二次林の分布 (千葉県文書館 1984)



図4-20 蒲田乳中牧跡場と牧場のまご遺の牧場跡は、このように形で現在も牧草地として存続している。1998年12月、安房郡丸山町

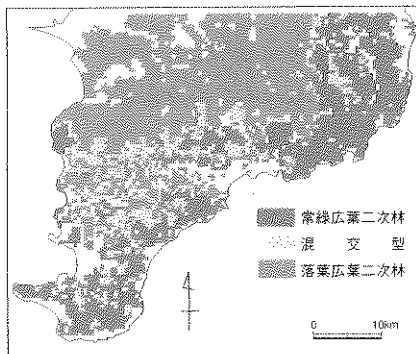


図3-278 昭和後期の南房総における二次林の分布
環境庁発行 (1981) 5万分の「現存植生図に500m四方のメッシュをかけた「シイ・カン萌芽林」(常緑広葉二次林)と「コナラ群落」(落葉広葉二次林)の分布を読み取って作成した



図3-279 明治初期の南房総における草原の分布
2万分の「地方迅速測図(陸軍測量局発行)から草原を示す凡例を読み取って作成した

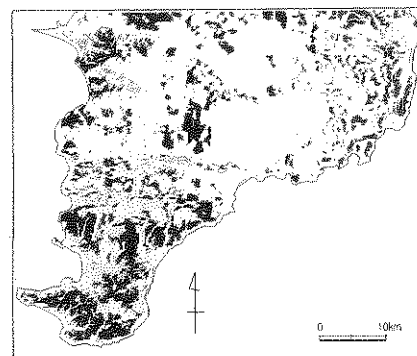


図3-280 明治初期の南房総におけるマツ林の分布
2万分の「地方迅速測図(陸軍測量局発行)からマツ林を示す凡例を読み取って作成した

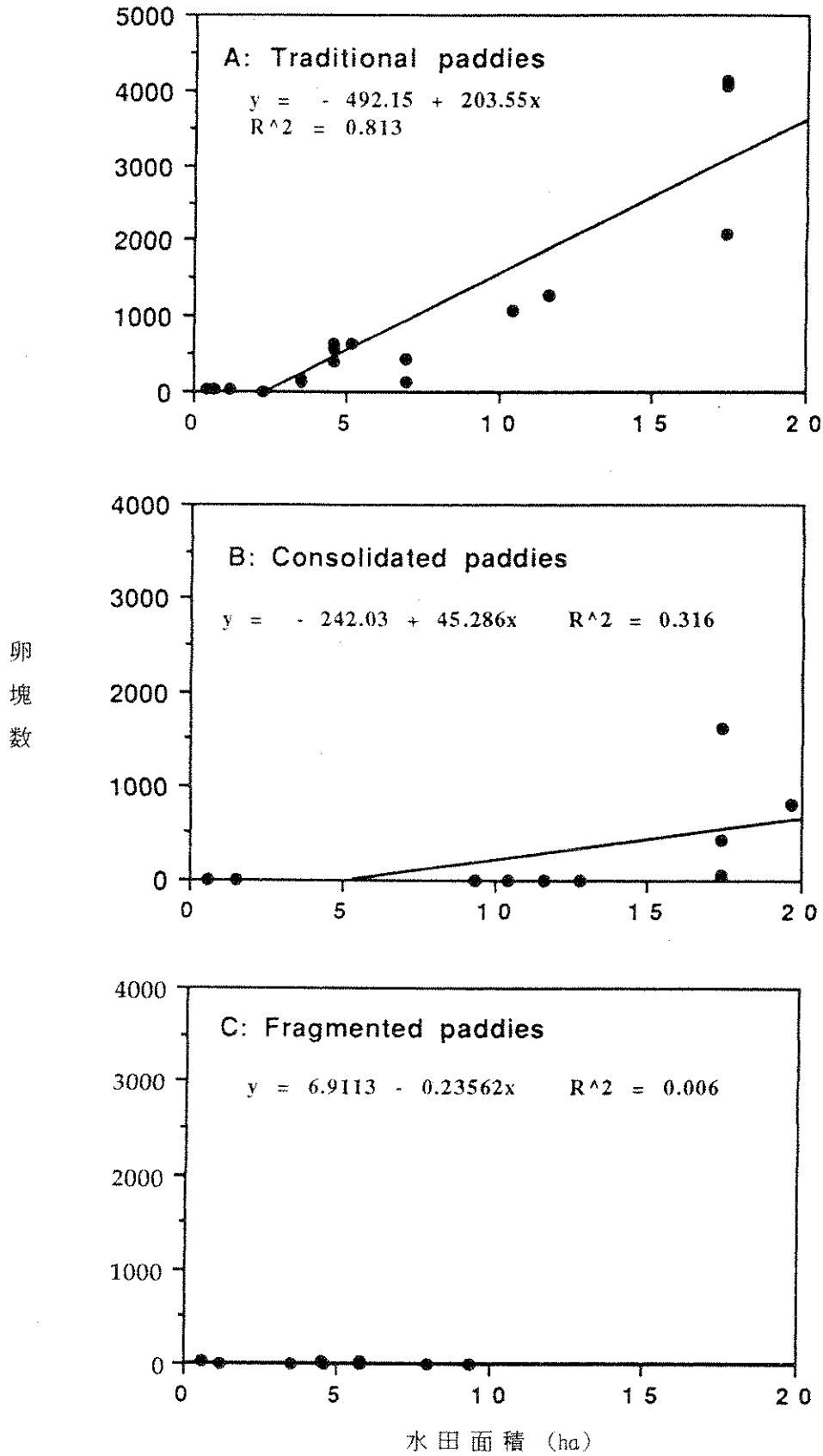


図3. 水田面積とニホンアカガエルの産卵数の関係。A：圃場整備がなされていない旧式の湿田；B：圃場整備された乾田；C：住宅地の中の孤立した水田

出典：千葉県環境部環境調整課（1993）開発地域等における自然環境への影響予測に係る基礎調査IV

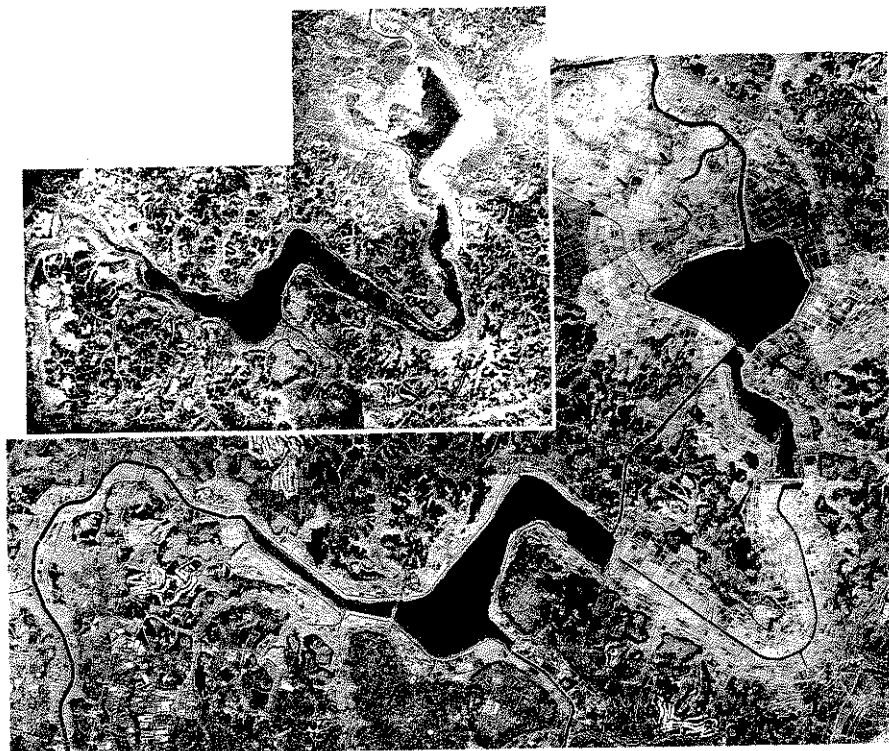


図4-46 印旛沼干拓前後の航空写真
 上：1948年米軍撮影M399-46・M630-3～6を使用
 下：1995年国土地理院撮影CKT-95-2X、C1-12～13・C2-12～13・C3-7～14を使用

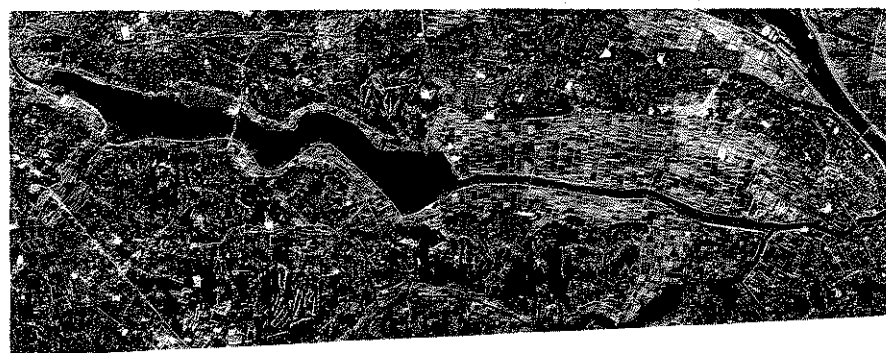
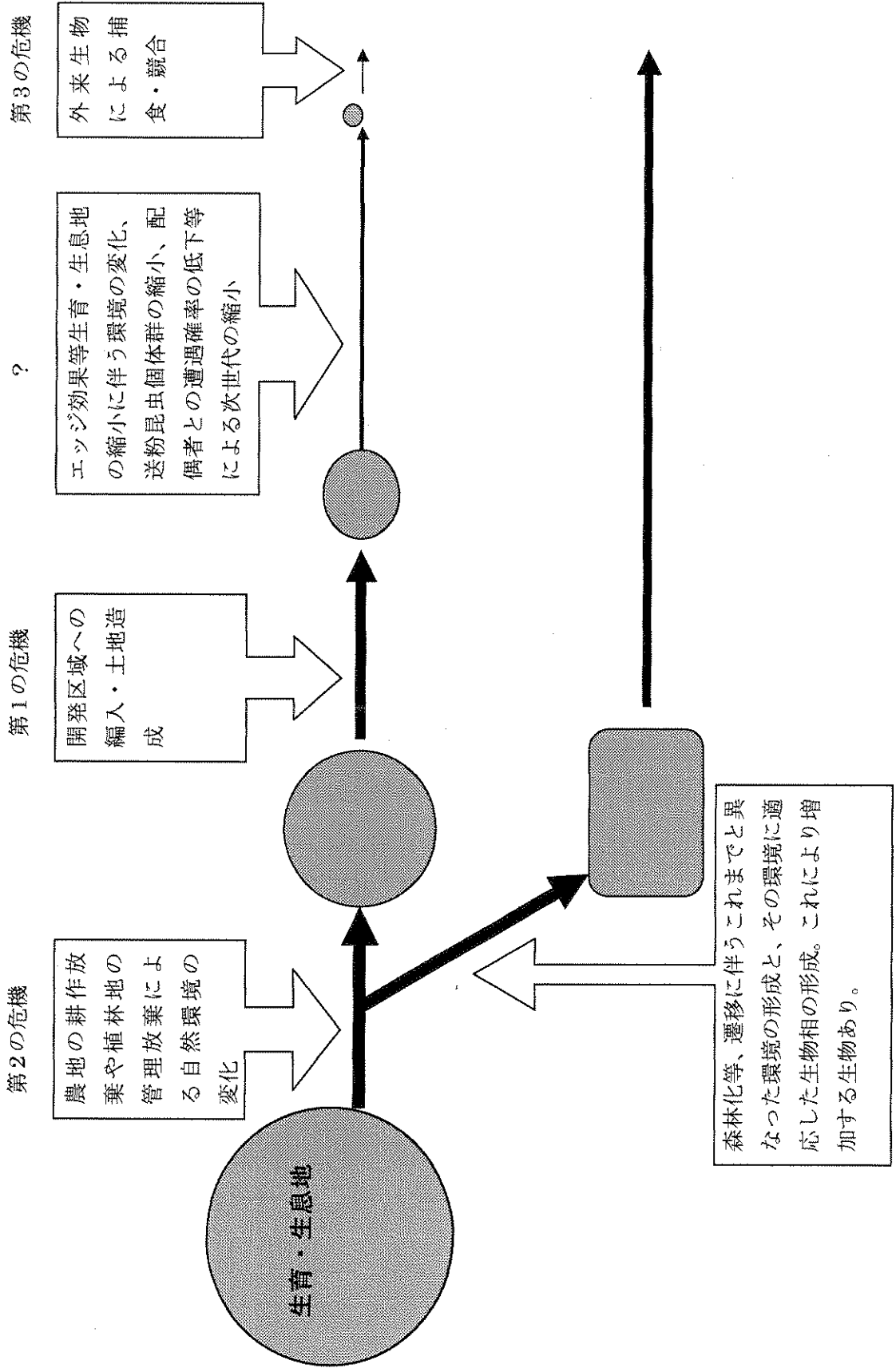


図4-47 手賀沼干拓前後の航空写真
 上：1948年米軍撮影M399-16～19、40～43を使用
 下：1995年国土地理院撮影CKT-94-3X、C10-3～9 CKT-95-1X、C11-35を使用

出典：千葉県（1997）千葉県の自然誌 本編2 千葉県の大地

生物の種個体群減少・絶滅のプロセスの想定例



生物の種個体群の減少・絶滅の原因

	第1の危機		第2の危機	第3の危機			その他						
	開発に伴う土地造成	人による採捕		人為的な環境変化による生育・生息地の減少・消失	外来生物による捕食	外来生物との競合(生育・生息環境)	外来生物との交雑	環境ホルモンによる繁殖の阻害	圃場整備・冬季乾化等農業者の環境変化に伴う生育・生息地の減少・消失	遷移等自然環境の変化による生育・生息地の減少・消失	在来種からの捕食圧の増加(ニホンジカ等)	個体群維持に必要な他の生物種(餌生物・送粉昆虫等)の減少・消失	
個体の死による個体群の減少・絶滅(現世代)	○	○	○	○	○			○	○	○			
再生産(次世代)の減少又は失敗による個体群の減少・絶滅			○		○						○		○
交雑による遺伝的な種個体群の消滅(次世代)						○							

※ 第1の危機:人間活動・開発が直接的にもたらす種の減少・絶滅等
 第2の危機:自然への人為の働きかけが縮小撤退することによる種の減少等
 第3の危機:外来種による生態系の攪乱、化学物質による生態系への影響
 その他:3つの危機に当てはまらないもの、別にした方が適当と考えられるもの